

【(2014年3月期 第3Q) 機関投資家・アナリスト向け決算説明会 議事録】

日本ハム株式会社

・開催日時	: 2014年2月3日(月) 10:00~11:00
・出席者	: 取締役常務執行役員(グループ経営本部長、経理財務部・IT戦略部担当) 畑 佳秀 グループ経営本部 広報IR部部長 中島 茂

【質疑応答】

<全体>

Q) 来期以降の成長ドライバーは？

A) 食肉事業においては、国内外における販売拡大や食肉ブランドの強化、加工事業においては、ブランド価値を追求した商品開発や新カテゴリーの創造、海外事業・関連企業においては、M&A、事業提携等による拡大を目指している。

Q) 2014年3月のCB(転換社債)償還と対応策は？

A) 現在の株価水準からすると全額転換されると思われる。ROEを経営目標指標に掲げていることも考慮し、資本戦略を検討していく。

<食肉事業>

Q) 豪州事業の今期状況及び来期の見通しは？

A) 上期は、数量伸長効果と、為替効果等で大幅伸長となった。第3Qは、昨年の反動により数量は厳しかったが、販売は順調に推移している。

来期は、仕入れ(生体)価格上昇が予測されることから、今期利益には届かないと考えている。

Q) 米州事業の来期の見通しは？

A) 改善傾向ではあるが、依然厳しい状況が続いており、販売強化やコスト改善等をはかっていく。

Q) 国内食肉販売及びフード会社の今期状況及び来期の見通しは？

A) いずれも堅調に推移している。フード会社については、牛肉の販売拡大やブランド食肉販売強化等により収益向上をはかっていく。

Q) タイ産鶏肉の輸入解禁の影響を踏まえた今後の国内鶏肉市況の見通しは？

A) タイ産鶏肉の影響は限定的であることや市中在庫が低水準であることから、当面堅調に推移すると思われる。

<加工事業>

Q) コストダウンの今期状況及び来期見通しは？

A) 今期は数量の伸び悩みや業務用商品等の価格転嫁遅れ等により計画に届いていない。来期は主力商品及び新商品の数量拡大が課題と考えている。

Q) 来期原料高が予測される中での対応策は？

A) 更なる効率化に向けた取り組みや新カテゴリーの創造、新たな食シーンの提供などにより商品価値を向上させる。

以上